










国にアスベスト問題の早期解決を求める意見書

標記の意見書を別紙のとおり、逗子市議会会議規則第14条の規定により提出いたします。

平成24年6月29日

逗子市議会議長 眞下政次 殿

逗子市議会議員	田中 英一郎	
同	匂坂 祐二	
同	横山 美奈	
同	奈須 和男	
同	高谷 清彦	
同	岩室 年治	
同	長島 有里	
同	君島 雄一郎	
同	松本 寛	

(別紙)

国にアスベスト問題の早期解決を求める意見書

アスベストを大量に使用したことによるアスベスト(石綿)被害は、多くの労働者、国民に広がっている。

国は、建築基準法などで不燃化、耐火工法として、アスベストの使用を進めたことで、アスベストが建設資材など建設現場で使用された。

特に建設事業者は、重層下請け構造や多くの現場に従事することから、労働災害の認定に困難が伴い、また、多くの製造業で支給されている企業独自の上乗せ補償もない。

国は石綿被害者救済法を成立させたが、極めて不十分なもので、成立後も一貫して抜本改正が求められている。

よって、逗子市議会は、政府に対し、建設アスベスト被害者と遺族が生活できる救済の実施と、アスベスト被害の拡大を根絶する対策を直ちにとり、アスベスト問題の早期の解決を求めることを強く要望する。

以上、地方自治法第99条の規定により意見書を提出する。

平成24年6月29日

逗子市議会